

授 業 科 目	単 位			開講期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	実験	前	後		
A 類	材料力学特論	2				教授 博(工) 竹 村 兼 一	複数担当科目
	機械材料特論	2				准教授 博(工) 寺 島 岳 史	
	熱流体工学特論	2				教授 博(工) 中 西 裕 二 准教授 博(工) 伊 東 弘 行	
	機械力学特論	2				教授 博(工) 山 崎 徹	
	制御工学特論	2				教授 工博 江 上 正	複数担当科目
	生産工学特論	2				教授 博(工) 中 尾 陽 一 准教授 博(工) 笹 田 昌 弘	
	計算機解析特論	2				教授 工博 原 村 嘉 彦	
	弾性力学特論	2				教授 工博 伊 藤 勝 悦	
	材料強度学特論	2				教授 博(工) 竹 村 兼 一	休講
	塑性工学特論	2					
	工作機械特論	2				教授 博(工) 中 尾 陽 一	
	加工学特論	2				准教授 博(工) 笹 田 昌 弘	
	トライボロジ特論	2					休講
	最適設計特論	2					休講
	伝熱工学特論	2				教授 工博 原 村 嘉 彦	休講
	熱工学特論	2				准教授 博(工) 伊 東 弘 行	
	流体工学特論	2				教授 博(工) 中 西 裕 二	
	機構学特論	2					
	振動工学特論	2				教授 博(工) 山 崎 徹	休講
	システム制御工学特論	2				教授 工博 江 上 正	
計測工学特論	2				講師 工博 田 島 守		
ロボット工学特論	2				教授 博(工) 林 憲 玉		
構造解析特論	2					休講	
B 類	機械工学輪講		1			教授 工博 伊 藤 勝 悦 教授 博(工) 林 憲 玉 教授 工博 江 上 正 教授 博(工) 竹 村 兼 一 教授 博(工) 中 尾 陽 一 教授 博(工) 中 西 裕 二 教授 工博 原 村 嘉 彦 教授 博(工) 山 崎 徹 准教授 博(工) 伊 東 弘 行 准教授 博(工) 笹 田 昌 弘 准教授 博(工) 寺 島 岳 史	
	機械工学輪講		1				
	機械工学輪講		1				
	機械工学輪講		1				
	機械工学特別研究			1			
	機械工学特別研究			1			
	機械工学特別研究			1			
	機械工学特別研究			1			

授 業 科 目	単 位			開講期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	実験	前	後		
C 類	応用数学	2				講師 理博 酒井克郎	
	応用数学	2				講師 理博 酒井克郎	
	応用物理	2				講師 白井達也	
	応用物理	2				教授 理博 田村忠久	
	実践科学技術英語	1				講師 田沼智	
						講師 南田孝子	
	実践科学技術英語	1				講師 田沼智	
						講師 南田孝子	
学外研修 A			2		教授 工博 原村嘉彦		
学外研修 B			2		教授 工博 原村嘉彦		
D 類	他研究科および 工学研究科他専攻の科目						

印は選択必修科目。

「実践科学技術英語」「実践科学技術英語」は、2013年度以降の入学者に適用。

指導教授

学生は所属する専攻の科目のうちから演習の指導を受ける1科目(自己の最も専門に研究しようとする科目)を選び、研究科委員長の承認を得て、その科目担当の教授によって研究全般の指導を受けること。

この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。

履修方法

- 指導教授の指導によって、30単位以上を履修すること。その内訳は次のとおりとする。
 - A類から22単位以上(修業年限の短縮が認められた者については、26単位以上)。ただし「材料力学特論」「機械材料特論」「熱流体工学特論」「機械力学特論」「制御工学特論」「生産工学特論」のうち8単位以上を含める。
 - B類から8単位(修業年限の短縮が認められた者については、4単位)。
 - C類およびD類の取得単位は8単位までA類に換算することができる。
 - また、他大学大学院(神奈川県内の大学院間の単位互換協定校)の授業科目を10単位まで履修することができる。修得した単位は、C類およびD類と合わせて8単位まで、A類に換算することができる。
 - A類中自己が最も専門に研究しようとする科目の講義は必修とする。なお、B類のその科目に関する輪講、特別研究は必修として履修するものである。
- 「学外研修A」「学外研修B」の履修については、担当教員に確認すること。
- 長期履修制度に関する所定の手続に従い申請等を行うことにより、修業年限を3年または4年とすることができる。
- 単位は、1年次修了までに(長期履修が認められた者については、修了前年度までに)20単位以上を修得すること。
- 本研究科の指定する方法で、修士論文の中間発表を行わなければならない。

修了要件

- 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年次以上(修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 修士論文の審査を申請し得る者は、博士前期課程第2年次以上(修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)に在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

授 業 科 目	単 位		開講期		担 任 教 員				備 考
	講義	演習	前	後					
材料工学特殊研究	2	2			教授	工博	伊 藤 勝 悦		休講 休講
	2	2			教授	博(工)	竹 村 兼 一		
材料工学特殊研究	2	2			教授	工博	伊 藤 勝 悦		
	2	2			教授	博(工)	竹 村 兼 一		
加工工学特殊研究	2	2			教授	博(工)	中 尾 陽 一		
加工工学特殊研究	2	2			教授	博(工)	中 尾 陽 一		
設計工学特殊研究	2	2							
設計工学特殊研究	2	2							
熱・流体工学特殊研究	2	2			教授	博(工)	中 西 裕 二		
	2	2			教授	工博	原 村 嘉 彦		
熱・流体工学特殊研究	2	2			教授	博(工)	中 西 裕 二		
	2	2			教授	工博	原 村 嘉 彦		
機械システム特殊研究	2	2			教授	博(工)	山 崎 徹		
機械システム特殊研究	2	2			教授	博(工)	山 崎 徹		
制御システム特殊研究	2	2			教授	工博	江 上 正		
	2	2			教授	博(工)	林 憲 玉		
制御システム特殊研究	2	2			教授	工博	江 上 正		
	2	2			教授	博(工)	林 憲 玉		

履修方法

- 1．学生は自己の最も専門に研究しようとする科目を選び、その演習を担当する教授から研究全般の指導を受けるものとする。
- 2．この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。
- 3．学生は指導教授による演習を12単位、その他指導教授により専修科目または、他の科目から8単位以上履修すること。

修了要件

- 1．博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 2．博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。